

平成28年11月8日(火)

研究力強化に向けた研究拠点の在り方に関する懇談会(第3回)

WPIの長期計画について



研究振興局 基礎研究振興課



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

WPIの基本的な位置づけと現状

- 国際頭脳循環のハブとなる世界トップレベル研究拠点の構築を目指す
 - 日本の科学界が内包するボーダーとバリアーを克服するための野心的なプログラム
- 4つのミッションを掲げ事業を推進
 - ①世界トップの研究水準、②融合領域への挑戦、③国際的な研究環境、④研究組織の改革
- プログラムとして大きな成功を収めているとの評価
 - 平成19年度年設立の5拠点は、World Premier Statusを達成



長期計画の必要性

- 研究成果及び研究環境・研究システム改革の両面で大きな成果を上げており、今後とも継続させるべき
- 長期的な計画に従い、拠点をさらに増やし、プログラムを発展させる必要
- ホスト機関が補助金終了後の拠点の活動を維持することが原則
- WPIのブランドを確立し、これを維持・発展させることは長期的な財産。このための新たな枠組み(WPIアカデミー)が必要



今後の新規拠点について

- 平成29年度に2拠点、平成30年度以降も新規公募を目指す
- 新規拠点の申請状況や、既存拠点の延長審査等の結果を見つつ、その後の拠点構築のペースを調整
- 我が国の大学等のポテンシャルを踏まえ、長期的には延べ数として最大20拠点程度までを想定する（参考資料）



新規拠点の規模、求める要件

■ 拠点の規模

- 1拠点最大10億円×10年(延長なし) ※予算編成の状況により調整
- 「見える」研究拠点としてのクリティカル・マスの確保のため、PI 7~10人(総勢70~100人)(フォーカス規模)を下限
- 支援終了後の自立を促すため、5年目の中間評価後に、支援規模を漸減する仕組みを導入

■ 求める要件

- 既存組織の再編と一体的な拠点構築
- 大学院生の受入れ促進など人材育成の観点を明確化



対象領域、選考の観点

■ 対象領域

- 自然科学系の基礎研究分野を対象
 - 平成29年度は、政策的重点化を踏まえ、数理・情報科学の観点を考慮して選考
 - 人文・社会科学の観点や社会貢献に向けた取組も積極的に評価

■ 応募資格

- 10年の支援期間中のホスト機関は応募不可
(平成29年度は、九州大学、筑波大学、東京工業大学、名古屋大学が該当)
- 平成19年度に採択されたホスト機関については、選考過程において、既存拠点への支援状況を厳しく審査

WPIアカデミーの創設

- プログラム委員会の延長審査でWorld Premier Statusを達成した拠点がメンバーとなるWPIアカデミーを創設
 - WPI拠点以外の研究拠点も、プログラム委員会による審査を受けることが可能
 - メンバーとなった拠点は、プログラム委員会が定期的に厳格な評価（評価が低い場合は離脱）
 - PD、POによる細やかなフォローアップを継続
- WPIアカデミーの主な機能
 - WPI全体に横串を刺したブランド化・ネットワーク化
 - 国際頭脳循環の加速・拡大（WPIが開拓した国際ネットワークの活用）
 - WPIで蓄積された経験、成果の集約と横展開



(参考) 拠点数を考える視点①

- WPIと同じ方向性の経営方針を持つ大学が少なくとも18大学、研究開発法人は3法人
 - 国立大学で「グローバルトップ型」を選択しているのは16大学。RU11に参画している慶応大、早稲田大を加え18大学
 - 特定国立研究開発法人として3法人(理研、産総研、物材機構)を指定
- 運営費交付金が100億円程度以上で、拠点形成のポテンシャル
 - 既存拠点では、総合大学の場合、運営費交付金の配分額が300億円以上
 - 物材機構(119億)、東工大(212億)も、拠点形成に成功



(参考) 拠点数を考える視点②

- 大型の競争的資金の獲得実績
 - 拠点長やコアPIになりうる研究者層の厚みも重要な指標
 - 以下の基礎研究を主たる対象とする大型競争的研究制度において、採択者が5人以上在籍するのは24機関
 - 科研費（特別推進研究、基盤(S)）
 - 戦略的創造研究推進事業(CREST、ERATO)
 - 革新的先端研究開発支援事業(AMED-CREST)

